



健康経営の推進～健康課題の見える化と健康文化の醸成～

健康開発学科 健康行動科学専攻

津野 陽子 准教授

【研究分野】 健康経営に基づく保健・医療情報を活用した健康課題の可視化
 【キーワード】 健康経営、データヘルス、労働生産性、働き方改革、産業保健
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=299tsuno>



研究概要

健康経営とは、従業員の医療・健康問題を経営課題と捉え、健康と生産性の両方を同時に行うマネジメント（Health and Productivity Management）の手法です。

組織の健康課題を可視化し健康リスクを評価する手法および健康リスクと生産性の関連は国内外において研究が蓄積されてきていますが、健康経営に取り組んだ効果をどのように測定するのか、何をもちて効果があると言えるか、学術的にも実践的にも検討課題となっています。組織における健康経営の効果はどのように測定するか、健康経営を促進する健康文化について研究しています。

研究紹介

- ・ 健康経営に基づく健診データ等を活用した健康課題の見える化
- ・ 健康経営推進のための組織（職場）の健康文化の醸成
- ・ 健康課題の見える化と働き方改革の推進
- ・ 健康と生産性の最適化を目指す働き方モデルの構築
- ・ 健康・医療情報を活用した「健康経営」の効果測定の分析モデルの開発

対象組織参加型で共同研究を提案しています。

講座テーマ紹介

- ・ 健康経営と働き方改革
- ・ 企業・組織と保険者とのコラボヘルス推進
- ・ PDCAサイクルに基づく保健事業の展開

などをテーマにした講演、研修会

アピールポイントなど

日本再興戦略に「健康経営」という言葉が出る前の2013年から健康経営研究に従事してきました。共同研究等により実践的な健康経営の推進とともに国内外の知見を踏まえた研究的エビデンスの蓄積を進めております。これまで保険者、経営者、保健事業担当者、健康管理担当者などを対象に多数講演・研修会を実施させていただいております。

（参考）健康経営の枠組みによる健康課題の見える化 <http://square.umin.ac.jp/hpm/>